

仁ノ地区より



好物は「エビとキュウリの煮物」!

おじま かずや
小島 一哉さん(53歳)

夫婦で30坪のハウスでキュウリを作っています。10月の苗の定植に向けてハウスの修繕や土づくりをして準備しています。仁ノ地区は農家同士で助け合う習慣があります。1月の大風で多数のハウスに被害が出た時も助けあい、2日間で修復を終えました。これからもここで長く農業を続けたいですね。

好物は「エビとキュウリの煮物」です。我が家ではよく食卓に並びます。時間ができたら以前乗っていたバイクや、新しくアコースティックギターに挑戦したいと思っています。

高知に1勝を届けたい!

にしむら あきひろ
GM兼監督 西村 昭宏さん(62歳)

高知ユナイテッドがJFLに昇格した今年度、コロナで延期されていた試合も7月に再開されました。残念ながら勝利をあげることができていませんが早く1勝をあげ、このコロナに負けない明るいニュースを届けて、サポーターと分かち合いたいです。また、チームとしては来年に向けて自分たちのサッカーのスタイルを確立することが目標です。

監督として選手の長所を伸ばしチームの目標をクリアしてしっかり結果を出し、次のステップJ3に向かって進んでいきたいと思っています。

高知ユナイテッドSCより



高知
地区

から こんにちは
今月の気になる人

直販部より



お客さんの気持ちになって

いざわ つぐみつ
井沢 嗣充さん(58歳)

夫婦で苗を育てて直販所に出しています。パパイア、アスパラ、ユーカリ、ネコ草、モンキーバナナなど定番のものと珍しいものを組み合わせています。パパイアなど収穫時期があるものは売れ行きやお客さんの反応を見ながら季節を先取りするように心がけています。育て方も手書きで作りました。お客さんが家で植えたときに一番いい状態になるように考えています。

長く続けている趣味はマラソン。稲刈りのあとから走り始めて県内の大会やJAの駅伝大会で走っています。

ハーブの魅力を広めたい

くすのせ ともこ
楠瀬 朝子さん(69歳)

高知市でハーブ園「まるふく農園」を家族で営んでいます。年間100種類以上のハーブを農薬や肥料を極力使わずに育てています。まだハーブが珍しい時から農園を始めたので料理教室を開いてハーブを知ってもらおう活動をしてきました。JA高知県の家の光講師も務め女性部やJAのイベントなどで講師をしています。

食用ハーブがメインですがブーケも人気なんですよ。繊細で可愛い見た目と良い香り、それぞれに個性も発揮するハーブの花束が喜ばれています。

高知地区より



5

高知地区

一汁三菜・男の料理教室



基本どおりに味付けをする参加者（高知市のとさのさと）

高知市の「とさのさとアグリコレット」で男の料理教室を開き60〜70代を中心に9人が参加しました。

高知県家の光講師の楠瀬朝子さんが指導し、「豚肉とネギの青シソ巻き」をメインに「土佐風キュウリモみ」「ナスの鶏味噌がけ」「カボチャとオクラの味噌汁」の一汁三菜を作り、協力して和気あいあいと調理しました。

参加者の浜田健夫さんは「思ったより薄い味付けで食べ応えのある料理になった。家で妻にふるまいたい」と話しました。

この料理教室は全5回開き、次回は「男のおつまみ料理」をテーマに行う予定です。

3

女性部

JAの森清掃 女性部12人が参加



清掃に参加した女性部員

春野地区女性部芳原支部は春野町にあるJAの森を清掃しました。8月14日に芳原支部の12人が参加し、草引き、落ち葉拾いなど1時間ほどかけて像周辺を清掃しました。支部長の上田千代さんは「朝早くから部員が集まってくれて、暑い中がんばってくれた」と感謝しました。

JAの森は、県青連、女性協が建立した「働く青年婦人の像」を中心に作られた庭園。県内のJA女性部・青壮年部によって、毎月清掃され、整然と保たれています。

6

青壮年部

ユナイテッド選手を食でサポート！



稲刈りをしたJA青壮年部員と西村監督（後列左から2人目）

仁ノ地区青壮年部はJリーグを目指すサッカーチーム「高知ユナイテッドSC」を農業と食の方面から応援しようと、クラブ関係者も参加して稲刈りをしました。

この活動は仁ノ地区のキュウリ農家、新階康雄さんが「農業とユナイテッド両方の魅力を発信したい」と4年前から呼びかけ、青壮年部員やJA春野農業経済センターが協力し、休耕田を利用して米作りをしています。

この日は60kgの米を収穫し、参加した同クラブの西村昭宏監督は「お米をたべて練習に励み、JFLで1勝をあげたい」と意気込みを語りました。

4

高知地区

新米おいしいね！
親子あぐりスクール

手作り料理と新米「いただきまーす！」（南国市稲生）

今年度2回目の親子あぐりスクールが開かれ親子26人が稲刈りをしました。南国市のベテラン農家の指導で早期米の品種「よさこい美人」を手刈りで収穫し、千歯扱きなど伝統的な脱穀を体験しました。

刈り取り後はJA女性部が運営する「あぐり食堂ほっと」で新米のほか地元産の野菜などを使った手作りの昼食がふるまわれました。参加者の久保麻希さんは「稲刈りを体験して農家の苦労が分かった。積極的に高知のお米を食べたい」と新米を味わいました。

Monthly Topics

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



草刈り機やトラクターを使い農地を復元する部員（春野町）

1 青壮年部

農地と地域を守る

青壮年部春野本部は、有害鳥獣や病害虫の温床となる耕作放棄地を解消し、農地を復元する「耕作放棄地対策事業」に取り組んでいます。組合員の要望を受けて始まり、今年で6年目です。

広報誌を通じて募集し、8月下旬の農閑期に作業を行っています。料金は機械のレンタル料など実費程度に抑え、3年契約で割り引くなどして地域の利用を促し、事前に現地調査をしてすでに林野化していたり、障害物等がないか確認し安全を確保しています。

8月18日に町内3カ所で延べ21人が作業に臨み、西分地区では部員ら7人が手動の草刈り機や除草用機械を付けたトラクターで草木や絡み付いたツタなどを刈り取りました。その後、丁寧に耕して手付かずだった放棄地は耕作可能な状態に復元されました。尾仲和入青壮年部長は「地域から要望はあるが、部員だけでは活動日数などが限られてくる、今後は関係機関とも検討してこの事業を続けていきたい」と今後の取り組みを話しました。



カマを使って稲刈りをする児童

2 青壮年部

小学生に稲刈り指導

青壮年部春野本部は春野東小学校5年生60人と8月22日に稲刈りをしました。

この日は15人の部員が参加し、部員の岩田真一郎さんは「親指を上にして束を持って、左足を引くと安全に刈れます」とカマの使い方を指導しました。全員が田んぼに入り、刃物に注意して声を掛け合いながら、汗を流して稲刈りをしました。またコンバインでの稲刈りや脱穀を見学しました。

例年は2年生と5年生が4月に田植えを行います。コ

口ナ禍の影響で部員だけで田植えをしました。参加した児童の徳岡奏太さん（11）は「稲刈りでできてうれしい。思ったより簡単にできた」と汗を流しながら刈り取った稲を運びました。30分ほどで刈り終わり、部員の高橋秀聡さんは「田植えをしたことを思い出しながら食べてください」と挨拶しました。

刈り取った稲は青壮年部員が精米したのち、学校給食で使用する予定です。

自分の農業を振り返ってみませんか？

GAP（良い農業の実践）に取り組むために ～食品安全編～

農業にかかわる方々には、GAPという言葉も徐々に聞き慣れたものになってきたかと思います。

「GAPは点検シートをやっていればいいんじゃないの？」

いいえ、それだけでは不十分です！ 自分の農場の問題点を見つけ、改善を繰り返していくことがGAPです。

では今回は、食品安全に関する問題点の事例を見てみましょう。

①コンテナの汚染

毎日収穫や出荷調整に使用するコンテナ、定期的に洗浄していますか？ せっかくきれいに洗浄しても、土足で歩く地面に直置きしていませんか？

大切な農産物が汚染されないよう、コンテナも清潔にしておきましょう。



汚れたコンテナ



コンテナの直置き

②作業中の異物混入

休憩時の飲食・喫煙場所は、農産物から離れた所に設置していますか？ 収穫や出荷調整に使う道具は出しっぱなしになっていませんか？

異物混入は、ルールを決めることで防げるものがほとんどです。



調整作業の近くで喫煙



ハサミが出しっぱなし

③農薬による汚染

家庭用の殺虫剤を、農産物や農業に使用する器具の近くで使用していませんか？ 農薬の近くに肥料や包装資材、農産物を置いていませんか？

残留農薬事故につながる可能性もあるので、農薬の使用・保管には一層気をつけましょう。



計量器の近くに家庭用殺虫剤



農薬と肥料を近くで保管

GAP点検シートが新しくなりました！

高知県では、国の「GAPの共通基盤に関するガイドライン」に準拠した【高知県版GAP】に取り組んでいます。今年度は、現在までのGAP点検シートの分析結果から、さらに生産者の方が取り組みやすい様式に変更しました。

高知県版GAPに取り組むことは、GAP認証のための準備にもつながります。生産者のみなさんも、少しずつレベルアップしたGAPに取り組み、より良い農業を目指しましょう。



鳥獣被害対策専門員 紹介

よろしく
お願いします



7月から鳥獣被害対策専門員に就任した横佐古 優太です。春野管内のほ場を荒らすイノシシ、ハクビシン、カラスなどの有害鳥獣被害対策のために被害調査を行い、勉強会を開催するなど地元との合意形成を図り、農地や作物を守る活動に取り組みます。

鳥獣被害対策専門員 横佐古 優太
携帯電話：090-3189-0373



鳥獣被害対策専門員からの お知らせ

「今までは被害がなかったのに、ここ数年で被害が発生するようになった」という声をよく聞きます。実は獣害の歴史は長く、古くから農家は野生動物との闘いを強いられていました。江戸時代の農家も被害に困り、その対策のため石をくみ上げて何キロにも及ぶシン垣を作ったり、見張り小屋を建てて毎晩交代で番をしていたことが分かっています。江戸時代まで、動物との攻防はずっと続いてきたのですが、明治に入り状況が変わりました。「獣害対策」が必要でなくなったのです。そのきっかけとなったのは「狩猟の活性化」と「森林の減少」でした。明治に入ると狩猟が活発になり、捕獲数が増加しました。また木材の過剰伐採によって動物の生息域が減少し、その結果被害は減少したのです。しかし段々と森林が回復し、動物の個体数・生息域も増加しました。そのため、動物と人間の生息域が重なるようになり、現在被害が発生するようになったのです。大切に育てた作物をめちゃくちゃにされて、悔しい思いをした方もたくさんおられると思います。しかし、獣害は適切な対策を取ることで必ず防ぐことができます。大切なのは油断せず、また諦めずに「自分の農地は自分で守る」という意識を持つことだと思います。そのために鳥獣被害対策専門員がおりますので、些細なことでもお気軽に相談して頂ければと思います。

お天気カレンダー 秋の日はつるべ落とし 気象予報士（株式会社ハレックス）●檜山靖洋

秋は日没がどんどん早くなります。東京の日の入り時刻を見ると、9月と10月は1カ月でおおよそ40分早くなります。1日で1〜2分ずつ早くなるということです。1週間たつと、おおよそ10分も早くなります。先週は、この時間まで明るさがあり外で作業できたから大丈夫と、同じ時刻まで外にいと、あつという間に暗くなってきます。

このように、夕方あつという間に暗くなることを「秋の日はつるべ落とし」といいます。日が落ちる様子をつるべに例えています。つるべとは、井戸の水をくみ上げるのに使うさおや縄に付けたおけのことで、すると井戸の中へ勢いよく落ちていくものです。今となっては、あまり見かけることはなく、私もほとんど見たことはありません。「秋の日はつるべ落とし」は、古き良き言葉として残したいものではありませんが、現代版の分かりやすい言葉ができるといいかもしれませんね。



皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

こうぐりを初めて読みました。コロナの影響で県外に遊びに行くことができないので、県内の情報を参考にお出かけをしたいと思います。キラメッセ室戸の「ぼたなすフライ」が気になります。

(高知市万々 31歳)

▼室戸市日南地区の伝統野菜「ぼたなす」。地域で大切に受け継がれてきました。通常のナスより大きいのに火を通すと柔らかくなるそうです。そのとろけるような食感を味わってみたいですね。

今年は命にかかわるほどの危険な暑さがまだまだ続きます。地元の野菜を食べて免疫力をアップ！暑さにもコロナにも打ち勝とう！

(高知市春野町 78歳)

▼コロナ禍や酷暑など異例の夏になりました。地元産の野菜は安全・安心。食べる力がわきますね。

香美地区の「学童農園事業」未来の農業者を育てるために、食を通じて国土を守ることが大切です。

(高知市春野町 68歳)

▼どろんこ遊びから初めて、田植え、稲刈り、餅つきまでを児童が体験する学童農園。土佐香美青壮年部が女性部や地域の協力を得て行っています。農業が子どもたちの将来の職業選択の一つになるよう続けています。

こうぐりの紙面の色使いや写真がとてもきれいです。楽しみに読んでいます。

(高知市春野町 70歳)

▼こうぐりには県内JA広報担当者から力作の記事や写真が集まっています。これからも読みやすい誌面づくりをしますので、ご愛読ください。

今年初めて畑の準備をしました。カブにチャレンジしたのですが、出てきた芽がカワイイすぎて間引きできず…できたカブをみて「ああ…間引きが必要だったか」と思いました。秋まき分こそ勇気を出します！

(高知市朝倉 28歳)

▼小さな芽を間引きできなかった優しい気持ちで伝わりました。間引き後は土寄せして株のぐらつきを防ぎ、大事に育ててあげてくださいね。

職員さんの訪問で3カ月分のこうぐりを届けてもらいました。ぼたなすを知らなかったのでも良かった。今月もお願いしています。

(高知市八反町 72歳)

▼高知地区でも組合員のご自宅を訪問し広報誌などをお届けする取り組みをしています。活動を通じてJAを知っていただく機会づくりをしています。

「花のある暮らし」で波介のヒマワリ畑がすばらしかった。来年は行けたらいいですね。

(高知市神田 71歳)

▼紙面いっぱい広がるヒマワリが見事です。あざやかな黄色に心が晴れ晴れしました。来年はきつとたくさんの方が訪れることでしょうね。

夏のひんやりスイーツを楽しもう！目にも鮮やかで心もうきうき！土佐人の発想の面白さ、アイスも楽しい！

(高知市丸の内 64歳)

▼マンガにユズ、イチゴ…どれもひんやりおいしそう！その中なんとキュウリのかき氷!? 四万十町の「まるい青果市場」の珍しいかき氷が気になります。

子供たちと直販所に行くと「高知の野菜はおいしいよね」と楽しそうにしています。特にトマトやイモ類が大好きです。

(高知市高所ね町 39歳)

▼高知は食材の宝庫です。こうぐりでは「作ってみんながえ」のコーナーで産地のおすすしめレシピを掲載しています。ぜひお子さんと挑戦してみてくださいね。

INFORMATION

お知らせ



組合員の皆様へ

法事やお葬式など無料相談お気軽にご相談ください。

JA葬祭では、誠心誠意・真心込めたサービスで大切な方とのお別れをサポートいたします。まずは、お電話にて【お葬式相談】と、お問い合わせください。会館入口に「のぼり」を提示している時は、相談係員が駐在しておりますので、お気軽にお越しください。 ※不定期にて駐在



【お問い合わせ先】

ルミエールはるの

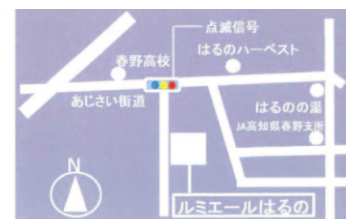
高知市春野町弘岡下1451-1

受付24時間
365日対応

☎ 088-894-5911

ルミエール各会館では

新型コロナウイルス感染症対策を実施中。



令和2年度ハルピアまつり開催中止のお知らせ

本年度10月に春野支所で開催を予定しておりました「ハルピアまつり」は、新型コロナウイルス感染拡大が懸念されるため、皆様の安全と健康を第一に考え、開催中止とさせていただきます。